

5 / 9 校長講話

ゴールデンウィークが終わりました。

いろいろな過ごし方をしたのではないのでしょうか。

私は、千葉県の館山というところへ行きました。

その渚の駅というところに、ハコフグの被り物がトレードマークのさかなクンの世界にふれるギャラリーがありました。カラフルな色使いで千葉県の海にすむ様々な魚を紹介したり、魚の特徴をととても詳しく伝えたりするコーナーがありました。

この展示物を見ていて、さかなクンは、どんな子どもだったのか気になって調べました。

子供時代のさかなクンとにかく気になると、とことん調べつくす。

一つのことに夢中になって取り組む子供だったそうです。

ある時、担任の先生がさかなクンのお母さんへ

「もっと学校の勉強に向かうようにしたらどうか」

「絵を習わせたらどうか」

と話をしました。

しかし、母親は「あの子は絵を描くのが好き、でも先生に習うと先生の書き方になる、本人の好きなように絵を描かせることを大事にしたい」と言ったそうです。

時が過ぎて、専門学校卒業後、いくつもの魚に係る仕事に就きましたが、うまくいきませんでした。でも、ある時、働いていたすし屋の大将がさかなクンのイラストに目を付け「うちの店の壁に絵を描いてほしい」と言われ、3日かけて絵を完成させたそうです。

そして、なんとその描いた魚の絵が評判となり、あちこちから声がかかるようになったということでした。

私は、そんなさかなクンの生き方から

「子供一人一人には無限の可能性がある」

「みんな違っていいんだ」

と強く感じました。

ここにいる夏雲小の皆さん一人一人にも、他の誰でもないあなたにしかない良さ・あなたにしかない可能性があります。

それを信じて、学校生活を過ごしてほしいと願っています。